PR

ユニークな人材活用術と企業アライアンスで急成長

新ケミカル商事

世界経済の複雑化や国内産業市場の伸び悩みが続く中、新ケミカル商事は、一〇年で売上高二・五倍という快挙を遂げている。急成長を続ける企業の軌跡と経営の内側に迫ってみた。

波乱からのスタート

新ケミカル商事は平成十六年八月、横尾化学産業と新日化興産が統合し、新日鐵化学の商事部門として創設された。新日鐵化学（現・新日鉄住金化学）の一〇〇％出資だった。

新日鐵化学からの出向で社長に就いていた上田哲則さんは、二年も経たずに苦渋の決断を強いられる。十八年三月、新日鐵化学社長から突然、「新ケミカル商事をつぶすから、戻ってこい」と言われたのだ。

「新日鐵グループとしては、効率よく儲けるのに、売上高利益率一、二％に過ぎない商社部門は必要ないというわけです。『それは待ってほしい』とやり合い、株主を探すのなら、と会社の存続が認められました。期限はわずか二週間でしたが、新日鐵化学の取引先である日豊興産のオーナーとはかねてから親交があり頼み込んだところ、株を買ってもらうことになりました」（以下、「」内は上田社長）

同社は、新日鐵化学一〇％、日豊興産九〇％の出資比率で新たなスタートを切る。

「新日鐵化学の傘下からは離れることになりましたが、その代わり自由に羽ばたけることになりました」

二百三十八億円だった売上高（十八年度）は十年で六百十億円（二十八年度）へと急成長。自己資本は四・六億円から三十四億円と六倍になった。「日豊興産さんには配当ですべて返しました。私も株主になっていればよかった（笑）」

積極的なM&Aと海外展開を加速

信用調査会社の評価点は、倒産しないとされる五十八点を上回り、現在六十四点。大手企業と同等の金利で融資を受けている。なぜここまで成功を収められたのか。

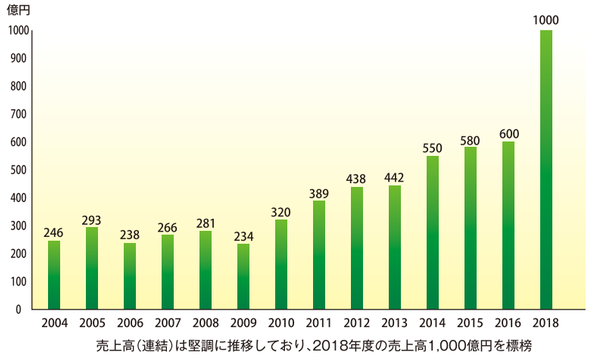
「アライアンスを積極的に行いました。有機分野から、建材といった無機分野に広げました。私たちは子会社や関連会社ではなく、パートナー会社と呼んでいます。意思疎通が出来ており、アライアンスによって辞めた社員は一人もいません。上海、香港に海外展開もしています」

特徴は、大手企業が会社の機能を集約する中、新ケミカル商事は分散していることだ。現在札幌から福岡まで、国内に十七の事業拠点を持つ。

「『地域戦略』と呼んでいますが、本社から営業に出かけるより、地元の人が身近にいた方が評判はいい。レスポンスも早いですし」

だがもちろん、現状に胡坐をかいている場合ではない。

「停滞は衰退。成長が大原則です。二百億円でスタートした半分以上はビジネスとして成り立たなくなっています。商社の宿命です」



売上高（連結）は堅調に推移しており、2018年度の売上高1,000億円を標榜

上田 哲則 社長

新たな事業や斬新な組織改革で日本一に挑戦

同社は二十六年、〝バイブル〟と呼ぶ「NCT−26」を策定。五年で売上規模一千億円にする目標に掲げている。目を付けたのが、最後の大きな需要とされるハラルビジネス。規模は一千兆円に及ぶ。

「豚を絶対に使ってはならず、ハラル認定は厳格です。鶏糞を燃料としたバイオマス発電とその燃焼灰の肥料化や、日本の会社と現地企業との間でのハラル食品合弁事業形成に取り組んでいます」十二月にも、サウジアラビアに次いでハラルビジネスへの参入が難しいとされるマレーシアに駐在員事務所を構える予定だ。

「ICチップを入れるキャリアテープなどすばらしい技術が日本にはあります。それを韓国、台湾に販売すべく市場調査に入っています。タイ、インドネシアへの進出も検討しています」来年度にかけて、地域戦略をさらに進める方針という。

「われわれが六百億円の売上といっても東京では普通の会社でしかない。そこで支店を徹底的に無くして、各地の支店を本社にしようと考えています。九州、大阪、名古屋の支店を廃止し、西日本ヘッドクオーターにします。東京本社と切り離し、逆に言えば、東京も支店となるわけです」

また、同社ではビジネスの目標を〝日本一〟に置いている。

「売上高という意味ではなく、建材、肥料、樹脂など日本一の特色のあるビジネスを構築します」

社格の礎となる人材の活用を重視

さらに上田社長は、社員を大切にすることで、会社の品格、つまり〝社格〟を高めることにもこだわりをみせている。

「商社は人が財産です。社格検討委員会を何年も開いています。社員にはマナーを求めますし、事務所の外観にも気を遣っています。我々は世の中に良い物を伝える潤滑剤。潤滑剤とは信用です」

高齢者も積極的に働くことが出来るよう、定年を六十三歳に設定。以降も社員として契約を結ぶことができ、現在は七十五歳の契約社員がいるという。

CSR宣言をし、社員全員にボランティア活動を促し、給与に反映させている。さらに、習い事を奨励し、年間十万円の補助を出している。

「個人のスキルを上げるバックアップをしています。アイデアは遊ぶことでリッチになり仕事に反映されます。ジャズピアノ、モーターボートの免許など、社員はさまざまな遊びに挑戦しています」

実は上田社長自身、能楽を三十年近く習っており、かなりの腕前だとか。

新ケミカル商事は社会に認知される会社を目指しつつ、売上一千億円の目標へと突き進んでいく。

「新ケミカル商事」これまでの歩み

昭和22年	横尾化学産業（株）設立
昭和48年	新日化興産（株）設立
平成16年	新ケミカル商事（株）設立（両社合併）
平成18年	日豊グループ傘下となる
平成24年	日豊グループ組織再編、日豊ホールディングス（株）が株式分配で取得、親会社となる
平成25年	資本金4億円に増資（資本準備金からの振替、持株比率変動なし）
平成26年	日興ケミカル（株）、（株）灰孝本店、（株）アイ・エル・シーの株式取得
平成27年	広鉱技建（株）の株式を、平成27年9月に取得ののち、平成27年12月吸収合併

NCT 新ケミカル商事株式会社 New Chemical Trading Co., Ltd.

新ケミカル商事株式会社
URL：http://www.nctcl.co.jp